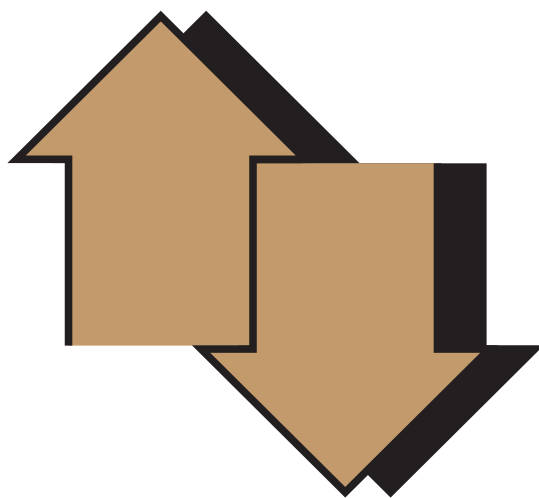


東京藝術大学：

これまでの
150年・

シンポジウム



これからの
150年

東京藝術大学は、2037年に向けて
どのような未来を提示することができるのでしょうか？

日時
会場

2025年11月24日（月祝）13:00～17:30
東京藝術大学上野キャンパス 中央棟1F 第1講義室

主催

未来創造継承センター、
芸術未来研究場「伝統継承・150周年」プロジェクト



TOKYO
GEIDAI



スピーカー

倉方慶明（東京外国語大学文書館アーキビスト[特定研究員]） 落合陽一（メディアアーティスト） 日比野克彦（学長）
大角欣矢（未来創造継承センター長／音楽学部教授） 毛利嘉孝（国際芸術創造研究科長・教授／音楽学部教授） 浅井ふたば
（大学史史料室・旧制東京美術学校部門） 仲辻真帆（大学史史料室・旧制東京音楽学校部門） 芹生春菜（大学史史料室・旧制東京美術学校部門）
古田亮（大学美術館教授） 海老洋（副学長 | 伝統継承・150周年担当） 藤原道山（同）

シンポジウム「東京藝術大学:これまでの150年・これからの150年」

1887(明治20)年に創立した東京美術学校と東京音楽学校を前身とする東京藝術大学は、2037年に創立150周年を迎えます。150周年を目前にして、大学、特に芸術系大学は大きな転換期にあり、1990年代前半にピークを迎えた日本の18歳人口は、現在およそ半分にまで減少しています。その一方で、グローバル化の影響により多様な文化的背景をもった学生が増加し、オンライン教育の充実やリカレント/リスキリング教育の一般化によって、芸術教育や芸術大学のあり方そのものが変容しています。

国立大学法人としての東京藝術大学は、2037年に向けてどのような未来を提示することができるのでしょうか。これまでの歴史を検証した上で、藝大の未来を有識者とともに考えたいと思います。

主催:未来創造継承センター、芸術未来研究場「伝統継承・150周年」プロジェクト

【日時】
2025年11月24日(月祝)
13:00~17:30

【会場】
東京藝術大学
上野キャンパス
美術学部中央棟1F
第1講義室

式次第

挨拶 日比野克彦(学長)

第1部:東京藝術大学の歴史

モデレーター 大角欣矢(未来創造継承センター長/音楽学部教授)

話題提供 「大学アーカイブズの役割」
倉方慶明(東京外国語大学文書館アーキビスト[特定研究員])

話題提供 「アーカイブズが語る藝大史——東京美術学校・東京音楽学校の事例より」
浅井ふたば(大学史史料室・旧制東京美術学校部門)、
仲辻真帆(大学史史料室・旧制東京音楽学校部門)

ディスカッション 倉方慶明、大角欣矢、古田亮(大学美術館教授)、
芹生春菜(大学史史料室・旧制東京美術学校部門)、浅井ふたば、仲辻真帆

第2部:東京藝術大学の未来を考える

モデレーター 毛利嘉孝(国際芸術創造研究科長・教授/音楽学部教授)

話題提供 「計算機自然・人間・芸術」
落合陽一(メディアアーティスト、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長/
図書館情報メディア系准教授)

ディスカッション 落合陽一、日比野克彦、毛利嘉孝、
海老洋(副学長|伝統継承・150周年担当)、藤原道山(同)

参加方法



以下のお申込みフォームから参加登録をお願いいたします。
(定員に達し次第、締切ります) <https://forms.gle/iym86KGRMGdSHuGU9>

【問い合わせ先】 東京藝術大学未来創造継承センター
future@ml.geidai.ac.jp



東京音楽学校:明治後期のレッスン風景



東京美術学校校舎及教室絵葉書(大正/図案科)



倉方慶明

東京外国語大学文書館アーキビスト。東京外国語大学大学院総合国際学研究所修了。専門領域はアーカイブズ学(利用促進、地域連携ほか)。大学院在籍中の2011年大学文書館設置準備室の立ち上げより文書館整備・運営を担い、2014年より現職。



©mitsutoshi watanabe

落合陽一

メディアアーティスト。1987年生まれ、2010年ごろより作家活動を開始。境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに作品を展開。筑波大学准教授、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)テーマ事業プロデューサー。写真集「質量への憧憬(amana・2019)」NFT作品「Re-Digitalization of Waves(foundation・2021)」など。2016年Prix Ars Electronica 栄誉賞、EUよりSTARTS Prize受賞、2019 SXSW Creative Experience ARROW Awards受賞。Apollo Magazine 40 UNDER 40 ART and TECH、Asia Digital Art Award優秀賞、文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品多数。

未来創造継承センター

未来創造継承センターは、絵画や楽曲といった作品はもとより、楽器、記録、デジタルデータ、文書といった芸術資源や創造の過程、文脈などもアーカイブ・保存・継承し、新たな表現への循環を促すクリエイティブなアーカイブを目指して、2022年4月に設置された。

大学史史料室(旧制東京美術学校部門・旧制東京音楽学校部門)

東京藝術大学は、1887(明治20)年に創立された「東京音楽学校」「東京美術学校」という2つの官立専門学校を前身としている。東京美術学校は美術教員・美術家を目指して、東京音楽学校は日本で最初の音楽教員・音楽家の養成機関として設立され、ともに我が国を代表する多くの美術家・作曲家・演奏家・研究者を輩出してきた。1949(昭和24)年の新制大学発足にともない、美術学部、音楽学部が設置されてからも、創立以来の公文書類・写真・演奏会や学内制作の記録・講義ノート等の教育資料の収集と保管、研究とアーカイブ構築を進めている。